

図画工作部会

県研究主題

豊かに感じ取る力を育てることを重視し、児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 桑野 麻美 (横浜地区)

<テーマ>

指導と評価の一体化を図る教材研究

「しっかり教え、しっかり引き出す指導」に向けた教材研究と授業実践 (1年)

身に付ける力を明確にした題材の研究

1. 提案内容

(1) 研究のねらい

- ① 「身に付ける力」を明確にする

いろいろな材料とふれあい、違いや良さに気づき、形や色のよさを感じ取り、自分なりにイメージを持って選んだり、つくったりしながら発想を広げ、いろいろな表現方法を試みるなどして、思いのままに表すことを楽しみ、表現し続ける力。

- ② 「身に付ける力」をしっかり定着できるよう、形や色を追究しながら活動できる題材を組み合わせる

<題材配列表の見直し、入れ替え>

12月⇒6月①へ B鑑賞(1)「あつめて、みて、さわって!いろのなかまだいしゅうごう」

3月⇒6月②へ A表現(2)絵に表す 「てでさわってかくの きもちいい」

7月①へ A表現(2)絵に表す 「ぺたぺたぺったん おはながみ」

(2) 研究の実践

- ① 題材名 「ぺたぺたぺったん おはながみ」 1学年 A表現(2)絵に表す

② 指導の工夫

**小中一貫の視点**  
新たな知識や技能をしっかり身に付けるために、年問題材配列を意図的に入れ替えて指導。

**出あいの工夫**  
15色のお花紙を用意。自分の好きな色を選び、柔らかい感触を味わいながらふれあう時間を十分確保。

**場の設定の工夫**  
広がる発想をすぐに表現活動へつなげることができるよう、広いスペースで行う。材料の置き場所にも配慮した。

**共感的支援の工夫**  
どんな形や色をつくることができるかを、対話しながら探るようにし、表現のよさなどを伝える時間や機会を十分に確保する。

③ 子どもの姿から見える「身に付ける力」

- ・自分の好きな色をつくり、気に入った形をつくって並べながら、さらに新しい色や形を思い付き、つくり続けている。
- ・お花紙のよさを生かし、細く裂いて束ねることによって動きを出し、自分の思いを存分に表現している。

(3) 研究の成果と課題

**成果**・題材配列表の見直しを行い、6月から7月にかけて取り組んだ題材によって、形や色に対するイメージを広げ、自分の好きな形や色をつくることに夢中になって楽しんでいった。そして、自分なりの思いを表現し続けるようになってきた。

**課題**・9年間の系統性を、年間計画(題材配列)を通して確認するとともに、目の前の子どもの実態を見取り、よりよい学習を構築するために題材配列や題材そのものを工夫すること、その実践で得られた成果や課題を学年、学校で共有し、学校全体で常に授業改善し続けていくこと。

## 2. 協議内容

- ・幼児教育でどの程度造形活動しているかによっても1年の図工が変わるのではないかとある。だからこそ、段階を追ってゆっくり育てていくことが大切だと考えている。
- ・評価するのが難しいと思うが、創造的な技能をどう見取っているのか。見取りの工夫やポイントがあれば教えてほしい。  
→B基準(概ね満足できる姿)を活動前にはっきりとイメージし、指導計画の中に具体的評価規準を入れている。それをもとに、その子に寄り添った声かけなどを行っている。題材の評価規準をもとに、予想される子どもの姿を考え、それを具体的に評価ポイントにしていくとよい。
- ・友達の真似からよい活動につながる子もいると思うが、そういう子への評価をどうとらえているのか。また、真似から脱却した児童の例があれば教えてほしい。  
→絵の具の活動の中で友達の作品を鑑賞することから気付いた他の色のよさを、今回のお花紙の題材でも生かすことができていると思う。真似からというよりは、鑑賞を通して気付いたと考えている。  
また、今回の活動の中では、多くの体験や鑑賞を通してきたことで、子どもたちがはじめにつくったお花紙の形から、どんどん形や色が変化していった。お花紙のよさを生かしきれていなかったような感じもうけるが、子どもたちはそれぞれの能力を最大限発揮できたのではないと思う。

## 3. まとめ

- ・お花紙を15色用意したことで、子どもにチョイスする場を設定いたことがよかった。
- ・子どもたちの日常のかけがえのない姿をとらえていくこととともに、題材配列表の見直し(カリキュラムマネジメント)をしていくことが大切である。
- ・活動の集大成によって、子どもの育ち、成長する姿が見られる。だからこそ、教師は、時間や場所、題材をよく考え、子どもの育ちにつなげられるよう、日々研究していくことが大事である。

### 提案2

提案者 吉村 絢(湘三地区)

<テーマ>

## 絵画作品を通して、想像力をはたらかせる

### 1. 研究内容

#### (1) 研究のねらい

- ア. 自分のイメージしたものと絵画作品とのコラージュで表現させる。
- イ. 小学校のまとめの時期に図画工作の楽しさをもう一度感じさせる。
- ウ. 自分の想いを友達に述べるができるようにする。

#### (2) 研究の実践

- ①題材名 「My World」～別の世界に自分がいたら～ 6学年 A表現(2)、B鑑賞(1)
- ②指導の工夫
  - ア. 言語活動の充実について
    - ・ただ描くだけではなくどうしてそのポーズを描いたのかを友達に伝え、イメージに対す

る意識を高めた。

- ・自分のお気に入りの絵画作品を選んだ理由をワークシートに記入し、その絵について友達と話し合った。そして、完成した作品を友達同士見合い、鑑賞し合った。

#### イ. 指導方法の工夫

- ・時間を区切って行うデッサンを何度かすることで、絵を描くことが苦手な児童にも取り組みやすくした。
- ・わりばしペンやスプレーのり、普段使用する画用紙ではないマーメイド紙の使用など、多種多様な道具を使うことによって意図に合った表現ができる工夫をした。また、コラージュの技法を取り入れた。
- ・絵を描くとき、周りの状態を見やすくするために座席を円形に配置して座り、友達の作品のよさに気づきやすくした。
- ・絵画作品に関心を持たせるため、数日前から教室に作品を提示した。

#### ウ. 評価の工夫

- ・児童の活動の様子をビデオや写真で記録し、個々の考えを表現できているかを評価した。
- ・最後に自分の作品に対する思いを書いた感想も評価の材料とした。

### (3) 成果と課題

**成果**・導入でたくさんの絵画作品に触れることで、児童の絵画表現への関心が高まり、発想が広がった。また、お気に入りの一枚を選ぶ際に時間をかけることなく選ぶことができていた。

・鑑賞を通して絵画作品に触れることで、自分の新しいものに出会うことができ、自由な発想につながった。

・コラージュを用いたことで、取り組みやすくなり、図画工作の絵で表すことの時に手が止まってしまう子が進んで取り組むことができていた。

・子ども同士、意見交換をすることで、イメージを膨らませることができた。

**課題**・イメージの広げ方が課題である。この題材では、事前に描いた「自分」を絵画作品に入れ込んだが、イメージを広げるためには、自分の絵があって絵画作品を入れ込む方がよかったのか。

## 2. 協議内容

- ・この題材で育てたい資質はなにか。  
→抵抗なく、感じたことを想いのままに、進んで自分で描くこと。
- ・鑑賞の時の様子や反応を教えてください。  
→教師が絵を選び、プラ板をあわせた。歓声を上げ、友達の作品の良さを見つけていた。
- ・絵の見方、鑑賞の指導はどのようにしたのか。  
→「色がいいよね」「形がおもしろいよね」といった言葉が、子どもから自然と出ていた。コラージュすることで作品に親しみを持ってほしかった。
- ・絵画 80 枚の選び方、教師の思い入れはどのようなものか。  
→カレンダーやパンフレット、図書館などから風景画、人物画など、身近にあるものを集めた。その時に、子どもが楽しめるだろうなと思えるものを選ぶようにした。
- ・図工が楽しいと思えるように、どのような題材提示をしたのか。  
→あり得ないものも絵では表現することができるということを絵画作品を見ながら話し

合い、自分の今までの感覚と違うことをするというところを感じさせた。

### 3. まとめ

- ・題材開発における「造形遊び」の考えは、いろいろな可能性が考えられ、つながっていくのでおもしろいが、「ねらいに向かっていくこと」は外せない。子どもが身につける力については検証が必要である。
- ・A表現（2）表現主題における題材開発には材料、エピソード、表し方など様々なヒントが隠れている。
- ・絵が苦手な子というのは、中学に行っても続いていく。もっと話をさせて、対話をさせて、考えを聞き、鑑賞することが大切になっていく。

#### ◇グループ協議

##### 年間指導計画について

- ・カリキュラムを小中一貫の9年間で見通す(9年間で学びをつなげていく見方)ことも大切。
- ・現在の題材配列をそのままやるのではなく、どう組み立てていくかが大事。また、学年だけでなく、学校全体まで広げていけるよう、配列のポイントの絞り方も大切になっていくのではないかな。
- ・子どもは、発想があふれてくるような、スパイラルになる題材配列にしていくとよい。
- ・学年にあった計画を、鑑賞→造形→表現で14時間など、大きな流れで決めていく。

##### 評価について

- ・評価は、身に付けたい力があって、それに近づけたかどうかを見取ることが大事。付けたい力は、教師と子どもで共有することも大切。写真を撮っておくのも評価方法の手立てとなる。
- ・ねらいや評価規準を明確にさせることが大切。評価方法では、図工ノートなどの活用し、結果よりも経過を見取っていく。

##### 言語活動の充実について

- ・作品づくりの中での言語活動は活発になると、新たな技法の発見や発想の広がりにつながる。制作途中の鑑賞会で友達の工夫や面白いところを互いに見合う活動は有効。
- ・1～6年まで全学年が集まり鑑賞ゲームを行った。活動の中から出てきた子どもの言葉からもクラスで共有させていくことで、言語活動の充実につながった。
- ・鑑賞という時間を取らずとも授業の中でのつぶやきや友達との関わり合いの中で鑑賞はできている。また、机の配置などで言語活動がより活発になる。
- ・鑑賞の時間の言語活動については、美術館に実際に行く、アートカードを活用する、それ以外でのつぶやきを大切にするなどの方法がある。

#### ◇まとめ

- ・より子どもの視点に立ってみることで、具体的な指導ができるようになる。
- ・共通事項の視点については、自分の感覚や活動を通して、色や形、やイメージをもつことが大切である。
- ・発想・構想の能力や鑑賞の能力を高めるために授業イメージを作っていくことが言語活動の充実につながる。
- ・①子どもの姿を見る、②子どもが主体的に活動できるようにする、③ねらいが明確な授業をする、この3点を考えた上で指導していくことが大切である。